

健康安全講話（概要）

1 開催日時

平成28年9月28日（水） 13:00～14:30 15:00～16:30

2 開催場所

在シンガポール日本人会館 オーディトリウム

3 講演者

在タイ日本国大使館 医務官兼参事官 吉村 浩

4 講話概要

（ジカウイルス）

ジカウイルスとは、ヤブカを媒介としたデング熱と同種のフラビウイルスである。

シンガポールにて流行しているウイルスは、アジア系統（ブラジルの場合は、アフリカ系統）に属し、主な感染経路として、蚊の吸血及び性交渉が挙げられる。

主な症状として、軽度の発熱（37～38度代）、眼球結膜の充血、かゆみを伴う発疹があり、合併症として、ギランバレー症候群及び小頭症を発症する場合がある。

現在ではワクチンはなく、治療法としては、鎮静解熱剤を服用し、水分補給を怠らず安静にすること。

検査方法としては、血液または尿検査を通じてのジカウイルスの遺伝子検出や抗体検査が挙げられる。シンガポール保健省のHPの情報では、公共の医療機関では検査費用は150S\$（助成対象者は60S\$）とのことである。民間の医療機関では、別途診察料金もかかるため、事前に確認して下さい。

予防法として、肌の露出が少ない服装（長袖、長ズボン）をし、肌の露出がある部分については、DEET成分を含む防虫剤を塗ることをおすすめする。

（テーマ）

- （1）ジカウイルスの拡がりの経過
- （2）国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態
- （3）検疫感染症とは
- （4）シンガポールでの状況
- （5）ジカウイルスとは
- （6）感染経路
- （7）ジカ熱の症状、診断、治療及び合併症（小頭症等）
- （8）予防法（防虫剤の使用法）

(9) シンガポールでの流行はアジア系のウイルス

(ヘイズ)

ヘイズとは、インドネシア・スマトラ島などにおける大規模な野焼きや森林火災により生じた煙が、モンスーン（南西季節風）により、シンガポール等に流されることによる煙害のことである。

煙には、二酸化硫黄やオゾン等が含まれているが、主要なのは微小粒子状物質（以下PM_{2.5}）である。

PM_{2.5}は、呼吸器系の深部まで到達しやすく、粒子表面に様々な有害成分が呼吸・吸着されていることから等から身体への健康影響の懸念がある。

1990年代以降、諸外国にて、PM_{2.5}と呼吸器・循環器系疾患による受診、入院との関係が示され、近年は虚血性疾患に及ぼす影響が注目されており、日本では、PM_{2.5}の濃度と呼吸器疾患による死亡、喘息児の症状増悪等との関連が認められている。シンガポールにおいてPM_{2.5}の値を確認する場合には、シンガポール国家環境庁が提供しているP S I（Pollutant Standard Index：汚染の度合を表す指数）を参考にするのがよい。特に高齢者及び呼吸器に疾患がある方には、外出する際の参考にP S Iを確認されることを薦める。

対策としては、P S Iを確認し、基準値を超えた際には、長時間の外出や運動を控える。外出する際にマスク（N95）を使用する。屋内にいる際には、空気清浄機を利用する等の対策が挙げられる。

(テーマ)

- (1) ヘイズとは
- (2) ヘイズによる大気汚染とPM_{2.5}
- (3) 粒子状物質の呼吸器への沈着
- (4) シンガポールにおける大気汚染物質の指標（P S I）
- (5) 微少粒子（PM_{2.5}）の健康影響（短期・長期曝露による死亡との関連）
- (6) 自分で行うヘイズ対策（マスク、空気清浄機の活用等）

以上

本講話における資料についての配布のご希望がある方につきましては、事前に当館領事班（6235-8855（代表））まで必要部数をご連絡の上、当館領事部窓口までお越しいただけますようお願い致します。

（本資料については、電子媒体はございません。紙媒体のみの配布となりますので、御了承下さい。）

以下は、当日の説明会での実際の質疑応答に基づき、在シンガポール日本大使館において、分かりやすく整理し直したものです。応答の内容については、講師の吉村医務官のご確認はいただいておりますが、現時点での公衆衛生学の知見に基づくものであり、将来異なる見解が示される場合が排除できないことを予めご承知ください。

【第1回目】

（ジカウイルス感染症）

Q1 子供の顔にはディート（忌避剤）を塗布できないとされているが、どうやって顔の部分の蚊除けをすれば良いのか？また、もし子供が誤って舐めてしまった場合にどのようにすれば良いのか。

A1 おでこや首の後ろに塗布してまずは触らないように教えるようにして欲しいが、仮に舐めたとしても量にもよるが頭痛や気分が悪くなるといった症状が、見られない限りあまり神経質になる必要はないと思われる。

Q2 パッチタイプと塗布タイプの蚊除けがあるがどちらが効果が高いのか。

A2 塗布タイプが良い。

Q3 蚊除け成分を含んだ、腕に身につけるリングがあると伺ったがこれは効果があるのか。

A3 商品そのものを把握していない。まずは塗布タイプを使うことが望ましい。

Q4 シンガポールでジカウイルス感染症が流行している現状を考えると、シンガポールでの妊娠は避けた方がよいのか。

A4 調査報告では、発症していない方であっても、また、発症した男性でも発症後180日経過後の精液中にジカウイルスが確認されている。ジカウイルス感染症についてはまだ詳細が明らかでないことから、不安があればもう少し状況が分かるまで待つという方法も考え得る。

Q5 年齢も考慮するとシンガポールで子供を作ることを待つのは難しい。検査を受けることである程度不安を払拭できないか。

A5 ジカウイルス感染症の症状（発熱、発疹、目の充血等）がなければ自費負担となるが感染していないかを確認できる。ただし、発症後20日以降を経過すると血液検査や尿検査ではウイルスを検出できなくなる場合があることに注意していただきたい。精液のジカウイルス検査は一般的では無いが、偽陰性を避けるため現状では1週間間隔で2回行うとされている。

Q 6 女性の体液においてもジカウイルスは確認されているのか。

A 6 2016年7月時点の報告によれば、女性の体液からもジカウイルスが確認されており、性交渉により女性から男性に感染したことも確認されている。なお、唾液中にもジカウイルスが検出されているがこれまでのところキスにより感染した例は報告されていない。

(ヘイズ)

Q 1 P S I (大気汚染の指数) が100を超えていなければ、自宅において窓を開けて生活して問題ないか。

A 1 P S I が100を下回っていれば、一般的に影響はないとされていることも踏まえ、窓を開けることにあまり気にする必要はないと思われる。

Q 2 ヘイズに含まれる有害物質は一度体内に吸入されると排出されることはなく蓄積されるのか。

A 2 一定程度有害物質は体内から排出されると言われているが、呼吸器・循環器に疾患を抱えている方は体調を崩された場合に医療機関を受診してもらいたい。

=====
【第2回目】

(ジカウイルス感染症)

Q 1 (発症しない感染を含めて) 一度ジカウイルスに感染すると、体内に抗体ができるのか。

A 1 一般的には、ウイルスに感染すると体内に抗体ができ感染しにくくなると言われている。

Q 2 体内に抗体ができると、たとえば数年経ち年頃になり妊娠しても小頭症のリスクはないと考えてよいのか。

A 2 体内に活性化しているウイルスがなく、単に抗体があるというだけであれば胎児への影響は低いと考えられる。

Q 3 だ液中でのジカウイルスはどの程度の期間で検出されるのか。

A 3 発症日から29日目までジカウイルスが検出されたと言う報告がある。

Q 4 現在ジカウイルスは東南アジアで流行しているが、今後日本で流行する可能性はあるのか。

A 4 日本で流行する可能性を否定できない。たとえば、ジカウイルスを媒介するヒトスジシマカは青森を北限として生息している。なお、気温が低くなると活動しなくなることから、越冬す

る可能性は低いと思われる。また、感染した渡航者が日本に帰国してその後2次感染したという報告はない。

Q 5 ジカウイルスに感染しているかどうかの検査の補助費用を確認したい。

A 5 <http://www.sg.emb-japan.go.jp/files/000186566.pdf>

Q 6 ジカウイルスが流行している地域であることを踏まえると、当地での妊娠は避けた方がよいのか。

A 6 9月6日に改訂されたWHOのガイドラインによれば、ジカウイルスの感染が流行している地域から帰国した者にとっては帰国後6ヶ月の間は性交渉する際にはコンドームを使用するか、性交渉を避けることが推奨されている。これを踏まえると、申し上げにくいですが当地での妊娠は（駐在している間には）避けた方がよいのではないかと思料する。（これに対して大使館より）シンガポール保健省のQ & Aによれば、まずは蚊に刺されないよう特に注意を払うこと、また、不安があれば医療機関に受診することとされている。

（ヘイズ）

Q 1 P S I（大気汚染の指数）の24時間値と1時間値がそれぞれ公表されているが、どちらを重視すればよいのか。

A 1 24時間値を基本に据えつつ、外出前には1時間値を見るのも必要と思われる。

Q 2 大気汚染の度合いとアレルギー鼻炎等には何らかの相関はあるのか。

A 2 日本では花粉やハウスダストにより、目が痛い、鼻水が出るといったアレルギー鼻炎の症状との相関が報告されており、ヘイズにもPM2.5が含まれることを踏まえると、何らかの相関はあると思われる。

Q 3 ヘイズに含まれる有害物質による害とたばこによる害はどちらが大きいのか。

A 3 たばこによる害の方が大きい。これは、PM2.5の成分がたばこの方が多いためであり、そういった意味で副流煙には注意をする必要がある。

Q 4 日本の空気とシンガポールの空気はどちらが汚いのか。

A 4 場所により異なることから、一概には申し上げられない。